

第2回（仮称）新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン懇談会 会議概要

開催日時	令和4年1月14日(金曜日)13時30分から16時40分まで
開催場所	新潟市役所 本館6階 講堂
出席者	<p>【委員】出席 11名(欠席2名)</p> <p>小沢謙一 委員、中村美香 委員、木山光 委員、田中健一 委員、本間慎一 委員、肥田野正明 委員、三本和彦 委員、和田徹 委員、祢津知広 委員、音瀬 肇委員、萩野正和 委員</p> <p>【その他説明者】</p> <p>新潟市 都市政策部 新潟駅周辺整備事務所</p> <p>にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会 稲葉幹事</p> <p>【事務局】</p> <p>都心のまちづくり担当理事、都市政策部長、都市政策部まちづくり推進課</p>
傍聴者	1名
報道機関	7社
会議内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事内容</p> <p>(1)今後の進め方</p> <p>＜事務局より説明＞</p> <p>(2)第1回懇談会での意見等に関する回答・説明</p> <p>＜事務局より説明＞</p> <p>(3)新潟駅とその周辺の今後</p> <p>＜新潟市新潟駅周辺整備事務所、三本委員より説明＞</p> <p>(4)「にいがた2km STREET VISION」の提言</p> <p>＜にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会の稲葉幹事より、</p> <p>「にいがた2km STREET VISION」と「にいがた2km未来会議」について説明＞</p> <p>(5)エリアプラットフォームについての意見交換</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉会</p> <p>【議事(3)についての主なご意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅施設に商業施設等が入る計画になっているが、万代とコンセプトやターゲットの違いは。 ⇒(三本委員)資料6P.3に施設整備のコンセプトを記載している。万代シテイ等と連携を取りながら相乗効果が高まるように検討していきたい。 ・新潟は雪国。階段は年配者にとって滑る危険もあるため配慮が必要である。 ⇒(新潟駅周辺整備事務所)雪風については階段に屋根を付け、駅前広場内にもガラス屋根のシェルターを設けて屋根の下を移動できるようにする。また、横断歩道部には地中熱を利用した融雪装置を設ける予定である。

【議事(4)についての主なご意見】

・資料7P.4の冒頭で「縮小社会に」とあるが、縮小に合わせて未来を描くのか。縮小しない未来を描くのか。

⇒(稲葉幹事)人口が増加し社会経済が成長するような時代ではなく、少子高齢化や人口減少等が進行する「縮小する社会」を前提条件として、人の幸福度を高める方向で議論を進めていた。

縮小といってもハード整備を全く行わないということではなく、投資した内容がきちんと回収できるのかの視点で判断し、必要なものには投資をしていくべきと考えている。

・提言の中に他にはない新潟の資源として「酒」が取り上げられているが、まちなかに酒をキーワードにしたコンテンツがこれまでなかった。「酒」をキーワードにまちが盛り上がることを期待している。

・万代クロッシングを今後どうしていこうと考えているのか。

⇒(柘津委員)地下空間の通行量や使われ方等の調査・分析は必要だが、賑わい創出という観点で検討したい。イベント等に活用していくためには消防法への対応などが必要となる。にいがた2kmの中でクロッシングが大きな期待を寄せられる空間になるように取り組んでいきたい。

・今回の提言で、「にいがた2km」のコンセプトはこれといった明確なキーワードが見当たらなかった。若手として「にいがた2km」をこうしていきたいという明確なメッセージがあるとよい。

⇒(稲葉幹事)提言を検討したメンバーは国・県・市の行政職員であり、行政職員だけでコンセプトを決めるべきではないとの意見から、提言を行った後、民間の方も含めた未来会議を設定し、その中で議論できたらと考えている。

・提言の中に雪をキーワードにした企画が見当たらないが、雪に対する議論はされなかったのか。

⇒(稲葉幹事)雪への対応や活用について議論を行ったが、提言に落とし込めるところまで詰め切れなかった。そのなかのひとつで地下空間の活用は雪の議論から発展したものである。雪とは密接に関わることから、引き続き雪に関する議論を行っていきたい。

・こういう取組はどの都市でもやろうという人がいてやること。その中で、新潟でなぜ今かと考えると、都市再生緊急整備地域の指定は大きい。まちが変わっていく、新しい駅がオープンするという状況を見れば、国際競争力を高める、外国人の力を呼び込むことに積極的になるのがよいと思った。

雪国のメリットもデメリットもあり、まちづくりにどう生かせるか、対策を打つか、外から来た人の感覚を重要視した方がよい。Uターンの方は雪に慣れている。

ビジョンにおいては、観光の視点だけでなく、定住に重きを置いた視点も大事である。

また、資料4でデジタル田園都市国家構想が出てきており、これは地方にデータセンターを置いたりして東京の一極集中を分散する思想が基だと思うが、長岡のデータセンターでは雪を保管し夏の冷却用として活用することで冷却費用の4割を削減している事例がある。そういう発想が組み込まれてくると面白い会になると思う。

・人中心というキーワードが出てきているが、実際新潟は車社会である。自動車の利用について議論はなかったか。

⇒(稲葉幹事)新潟の特徴として道路幅員が広く車が運転しやすいとの意見もあったが、今後の大きな方針として車に過度に依存しない公共交通を活かしたまちづくりの推進を目指す方向となった。

・若手が核となり議論することはおもしろく、他の区の若い人への刺激になっている。「にいがた2km」に暮らす人の像を明確にすると面白い。未来会議は行政だけではなく民間もということであるが、行政はプレイヤーになるのか、プレイヤーであり続けられる仕組みづくりが行政内でも必要なのではないか。また、これだけはやりたいという一点突破のものがあるとよい。

【議事(5)意見交換】

・幹事会とはどのような組織なのか。

⇒(事務局)決まっているものではないが、懇談会の出席者を中心に幹事会を設置したらどうかと考えている。

・エリアプラットフォームの役割はどうなるのか。ここを通さないと何もできないようになってしまうのか。

⇒(事務局)エリアプラットフォームが全てを決める組織ではなく、情報共有や連携、相談する場として考えている。そのため、エリアプラットフォームが主体となって直接活動することは考えていなく、何かを実施する場合はその都度実行委員会等をつくるようなイメージである。

できるだけ負担がかからないところから始めていきたい。その先には、国の補助金を活用して活動するなど発展していきたいと考えている。

・エリアプラットフォームについては、基本的に今の議論のとおりと認識している。今の段階ではふわふわしたイメージになっているが、今後皆さんと一緒に議論し形にしていながら、まちづくりの方向性は今後見えてくる。それを教科書として具体化するための議論の場という認識で良いか。

⇒(事務局)そのとおりである。

・エリアプラットフォームを維持していくための資金源はどうなるのか。幹事会がどの程度時間を割かれるのかは議題によりけりだが、どういう規則で運営できるかは慎重に議論していく必要がある。幹事会以外の参加者に対する手当は丁寧な作業がないと、エリアプラットフォーム自体を認識されない。

⇒(事務局)じっくり議論することが必要であるため、ビジョンと並行してエリアプラットフォームの議論をすることとしている。

・エリアプラットフォームは決定組織ではなく、情報共有の場である。他から入ってきた人が情報を共有する場がないため、それをエリアプラットフォームが担うことが推奨されている。

エリアプラットフォーム内部の上下関係はない方が良いが、決定プロセスがないと何も決まらない。賛同する人から裏負担として資金を得て、それを回していくイメージである。

新潟で東京の大手町・丸の内・有楽町地区と同じようなエリアプラットフォームができるものではないが、他の取組を勉強し、新潟に合う形を検討していくのが今の段階だと思う。そのための支援を国交省は行っていく。

・情報共有、情報発信も必要であり、プレイヤーなのかマネジメントなのか両方やるのかなど、非常に多様性があるものである。志民委員会でもいろいろなプレイヤーが入って、機能別にチームをつくって検討や活動を行った。

先程も話が出たが、観光の視点と住む人の視点は違う。住む人にとって何が足りないか。見えるものと見えないものがある。まだ結論は出ないが、これから探っていくって良いものをつくっていきたい。

⇒(事務局)いろんなやり方がある。事務局側で案を検討して投げかけたい。資金源はゼロの状態を考えるのか、負担してもらった方がよいのかも悩みどころ。次回提案させていただきたい。

・プラットフォームはぼんやりしているが、資料8 P.8でプラットフォームがあると良いと言っている団体がイメージしているものと、この場での議論が同じものなのか違うものなのか。

⇒(事務局)P.8の意見に対して応えられていると考えているが、引き続きエリアプラットフォームの形やメンバーについて議論をしていきたい。

4. その他

○ 事務局より、参考資料2について説明

5. 閉会